

絶滅危惧種 イタセンパラ を題材に、 ESDプロジェクトを実施しました！

三井住友信託銀行では2012年より、環境専門のインターネット放送局グリーンTVジャパンと協働して次世代を担う子供たちに向けたESD（持続可能な開発のための教育）プロジェクトに取り組んでいます。



第7弾ESDプロジェクトは、絶滅危惧種「イタセンパラ」を題材に取り上げました。

「国連生物多様性の10年（UNDB-J）」主催の生物多様性アクション大賞2015において本プロジェクトは入賞しました。

「イタセンパラ」って何？



コイ科タナゴ属の「イタセンパラ」は日本固有の淡水魚で、国の天然記念物に指定されています。板のように平らで（イタ）、鮮やかな（セン）、腹をもっている（ハラ）ことが、名前の由来といわれています。

「ワンド」と呼ばれる河川敷内の水たまりをすみかにしますが、現在では富山平野と淀川水系、濃尾平野の木曾川にのみ生息が確認されています。これは、密漁や外来種の増加、産卵する二枚貝の減少、生息環境の悪化などによるもので、年々生息数の減少が深刻化し、現在は環境省レッドリストで絶滅危惧種IAに指定されています。

地域の自然と生態系のつながりを学ぶ

2016年7月5日（火）、愛知県立木曾川高等学校総合実務部の生徒など25人を対象に、ICT（情報通信技術）を活用した環境教育の授業が開催されました。総合実務部では、イタセンパラの定期調査やパトロール、イタセンパラの飼育展示に取り組んでおり、9月に開催される日本魚類学会での研究発表を予定しています。今回のESDプロジェクトは生徒たちの研究をサポートしようと企画したものです。

授業では、世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ 学芸員の池谷様がファシリテーターとなり、木曾川河川敷の様子やイタセンパラの生態について解説した映像教材などを用いながら、木曾川流域の豊かな自然とその歴史、河川と私たちの暮らしのつながりやその変化が生態系に与えた影響などについて説明しました。

生徒たちは、かつては日常的に見ることができたイタセンパラが、河川整備や外来種の増加、密漁の影響で減少し、一時は絶滅したとされていたこと、個体が再発見されてからは地域の人たちが力を合わせて個体の保護・増殖に取り組んできたことを学びました。



池谷様は「イタセンパラが多いということは、川全体が自然豊かということ。まずはイタセンパラが安心して暮らせる環境をつくろう」と次世代を担う生徒たちに呼び掛けました。生徒たちは、地域の生態系保全のために自分ができること、活動を引き継いでいく大切さなどについて意見を発表しました。

三井住友信託銀行では今後も、地域の自然・生態系保全活動の活性化と環境教育の実践に努めてまいります。